

梅木加津子 議員



(二括質問方式)

- ①伊方原発再稼働問題
- ②子育て支援
- ③労働環境（市職員）
- ④市立大洲病院
- ⑤肱川河川整備計画

伊方原発再稼働問題について

問 民間企業が行うリスクの大きい原発の再稼働を了承するようであれば、新たな負担と犠牲は市民に与えないということではなくてはならない。そこに住む人たちの命と暮らしを守ることが責務である市長の政治的責任が問われるものである。事故が起きないとは

言えないという事業を了承するのであれば、市長は何を市民の皆さんへ安全の担保とするのか。

答 市民の安全な暮らしを守る責任が市に課せられた役割であり、その責務をしっかりと果たすことが必要であると考えています。市の役割として、万が一の事故の際に市民の皆様の安全・安心を図ることが非常に重要です。そのためにも、迅速に避難ができるよう、避難計画の実効性がより高まるよう、今後とも努めていく必要があると考えています。

広域避難に関しては、要配慮者の支援の方法など避難計画には課題が残っていると十分認識しています。その課題を一つ一つ克服していきながら避難計画を詰めていく努力を続けることが非常に重要だろうと考えています。

市立大洲病院について

問 病院給食の外部委託については、反対の立場であるが、その後どのように検討されたのか。

答 病院給食業務については、外部委託化を検討しているところですが、業者の選定手続等については、公募型プロポーザルにより選定することとし、最終的には2

業者より企画提案の提出がありました。この2業者の企画提案について、患者等給食業務委託プロポーザル評価審査委員会において厳正かつ公平な審査を行い、優先交渉権者を決定し、審査結果通知を行ったところです。

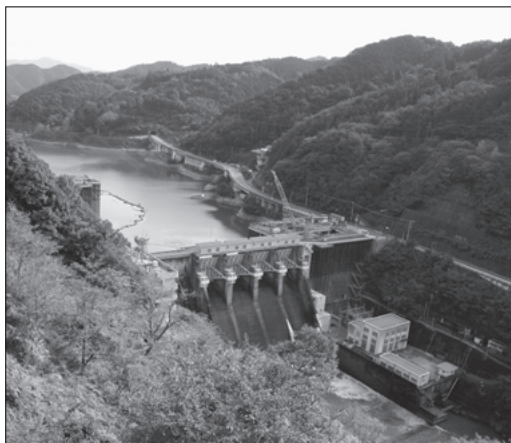
今後は、優先交渉権者と業務内容や契約金額など細部にわたり詳細な協議を本年12月を目途に行い、その結果、当院の要求水準に達していると判断した場合には業務委託契約を締結し、来年4月1日から保育食を含む病院給食の業務委託を開始したいと考えています。

肱川河川整備計画について

問 黒部川は、標高3,000メートルの山から20ないし30キロメートルで海に一気に流れるというところで、1年に1度排砂しているが、汚泥がたまることはないという。肱川は、鹿野川ダムが標高30メートル、38キロを緩やかに流れている。こうした川に汚泥が流されれば、川に堆積する心配がある。現に多くの土砂が堆積しており、その心配はないのか。

答 鹿野川ダムのトンネル洪水吐きは、黒部川の出し平ダムの

改修が進む鹿野川ダム



ような排砂を目的とした施設ではなく、洪水調節を目的とした施設であり、洪水時のみに使用されるものです。

底泥との関係については、のみ口部敷高から堆砂までの高低差が約10メートル程度あり、のみ口部前面に高さ約6メートルの壁が設けられるなど、ダム湖底に堆積している土砂が下流に流れ出ないような対策がとられています。

